



浜岡原発に関する要望書を提出した「市民有志」
＝掛川市役所

子どもたちに安心の未来を

原発対応、市に要望

川原のり
掛川女性

東日本大震災を機に浜岡原発への関心を高め、ネットワークを広げている掛川市などの女性が15日、母親の視点から「子どもたちが安心して暮らせる社会を」と訴える内容の要望書を同市に提出

した。戸倉由紀枝さん(同市城西)ら5人が市役所に持参した。要望書は、避難方法やヨウ素剤などについて、保育園や配布方法を含めもっと具体的な準備が必要と指摘したり、学校

給食には放射性物質が「規制値以下ではなく、含まれていない」食材を使うよう求めたりし、11月ごろまでに回答がほしいとしている。市側は広域行政などを担当する課の職員が受け取った。戸倉さんは「原発に近いほど発言しにくく、行動しにくい感じがありますが、私たちが子どもたちを守る方法を市ととも考えていきたい」と思いを語った。具体的な取り組みとして、19日にジャーナリスト上田河隆一さんの写真展「チェルノブイリ、福島、そして原発のない未来へ」を同市掛川の竹の丸で開く。10月15日午後1時から静岡放射能汚染測定室スタッフの講演会が同会場で開催される。問い合わせは戸倉さんへ電話090(4401)8774へ。

「原子力防災の 具体的対応を」

市民ら掛川市長に要望書

掛川市と周辺地域に住む母親らでつくる「浜岡原発を考える掛川市民有志」(世話人・戸倉由紀枝さん)の5人が15日、同市役所を訪れ、「浜岡原発は運転停止中だが、事故の不安を払拭できない」として、原子力防災の具体的対応を示すよう松井三郎市長宛ての要望書を渡した。要望書では、市のホーム

ページにコンクリート屋内退避の指示が出された場合の避難場所や避難方法、安定ヨウ素剤の配布方法を明記し、給食の食材の放射線量の測定、放射線測定器の購入などを求めた。

また、同有志の集まりでは19日午前10時～午後4時、掛川市掛川の竹の丸ギャラリーでフォトジャーナリスト上田河隆一さんの写真展「チェルノブイリ、福島、そして原発のない未来へ」を開く。無料だが、入館料(大人100円、小学生50円)が必要。

原発不安、子どもの安全守りたい

安定ヨウ素剤配布検討を

福島第一原発事故を受け、掛川市の主婦戸倉紀枝さん(58)ら女性五人が十五日、原発事故で放射性物質が飛散した場合に備え、甲状腺被ばくを防ぐ安定ヨウ素剤の配布方法を検討することなどを求める要望書を、松井三郎市長あてに提出した。同市は十一月ごろをめどに回答するとしている。(佐野太郎)



市担当者に要望書を提出し、説明する女性ら。掛川市役所で

市長に書 掛川の主婦・戸倉さんら5人

要望は、浜岡原発でも事故の不安が拭い去れないとして「原発震災時の市の対応についてホームページなどで公開し、福島第一原発から放出される放射性物質の影響が心配される」として「学校給食に使われる食材の放射線量の測定と、安全な食材の使用」の二項目。このうち、原発震災時の対応では、避難場所や避難方法を示すこと、統一的な社会もなしに、安定ヨウ素剤の服用に関する研修会を開き、学校や幼稚園、

子どもがいる世帯にも配布することを検討するよう求めている。また、給食の食材の放射線量の計測値を公開するよう求めている。

同市は、浜岡原発から十キロ圏内の「EPR(原子力防災対策の重点地域)」にある大東地区の大東支所に、安定ヨウ素剤三万錠を保管している。しかし、原発事故後は、袋井や島田市のようにEPRの範囲外でも備蓄を表明する自治体も出てくる。

五人はインターネット上で知り合い、原発事故の不安に対し、声を上げることにしたという。「子どもを守らなければ未来はなく、継続した社会もない。それを基本に考えてもらいたい」などと語った。

浜岡原発事故に備え 掛川市民有志が要望

「浜岡原発を考える掛川市民有志」の5人が15日、掛川市役所を訪れ、東海地震で浜岡原発が事故を起こした場合の対策などを求める要望書を提出した。

要望書は松井三郎市長あて。原子力災害時の避難場所や備蓄しているヨウ素剤の具体的な配布方法を市のホームページに掲載することや、学校給食には放射性物質が含まれない食材を使用し、定期的に放射線量を計測することなどを求めている。

2011年9月16日(金)郷土新聞



チェルノブイリで被災した親子(広河隆一撮影)

原発、放射能考えよう

19日竹の丸「広河隆一写真展」
 雑誌DAYS JA 主催は「浜岡原発を
 PA編集長でフォト 考える掛川市民有志」
 ジャーナリストの広河 東日本大震災、福島第
 隆一さんの写真展「チ 一原発事故、放射能汚
 エルノブイリ、福島、染、計画停電など、い
 ち」が、19日午前10時 まで1人1人がエネ
 から午後4時まで掛川 ギー問題に無関心では
 市の竹の丸ギャラリー いられない時代だとし
 て、チェルノブイリ原 倉さん(090-144
 発事故後の現地の人々 011-8774)へ。

2011年9月15日(木)NHK 静岡
 12時半のニュース
 18時ニュース「たっぷり静岡」

2011年9月16日(金)毎日新聞朝刊

原発事故対策 「ヨウ素剤配備拡充を」
 掛川の主婦ら、市長に要望
 中部電力浜岡原発 (御前崎市)から約20 市内にある掛川市在住の主婦グループが15日、原発事故に備えた安定ヨウ素剤の配備態勢を改善するよう求めた要望書を松井三郎同市長に提出した。
 掛川市は原発から10 圏内のEPZ(原子力防災対策重点地域)の住民用に、県が用意した安定ヨウ素剤3万錠を備蓄しているが、それ以外の市民用には用意していない。主婦



要望書を提出後、記者会見で写真展をPRする主婦たち(掛川市役所)

らは「地域の子どもの健康が心配」と訴えている。
 この日市役所を訪れたのは主婦グループ「浜岡原発を考える掛川市民有志」の5人。要望書では、ヨウ素剤服用の研修会開催や学校、幼稚園などへの事前配備なども要求。このほか学校給食の食材の放射線量測定なども求めている。

記者会見で学童保育所指導員の勝川志保子さん(52)は「内部被ばくが心配です。安心して子どもを育てられるようにしてほしい」と訴え、1歳から6歳まで3人の幼児を持つ米丸緑さん(39)は「行政は安全に対する考えを(これまで)180度変える必要がある」と話した。EPZ範囲外の県内自治体のうち、袋井と島田両市は安定ヨウ素剤の独自購入を決めている。
 主婦グループは19日、掛川市の掛川城竹の丸ギャラリーで「チェルノブイリ、福島、そして原発のない未来へ」と題する写真展を予定している。
 【舟津進】